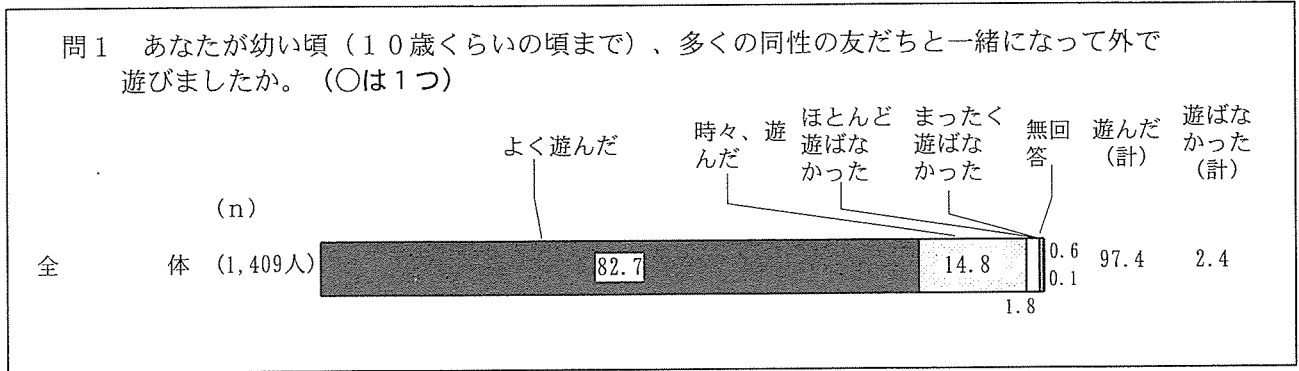


Ⅱ 調査結果の概要

第1章 これまでの日常生活や考え方

1 幼い頃の同性の友人との関わり

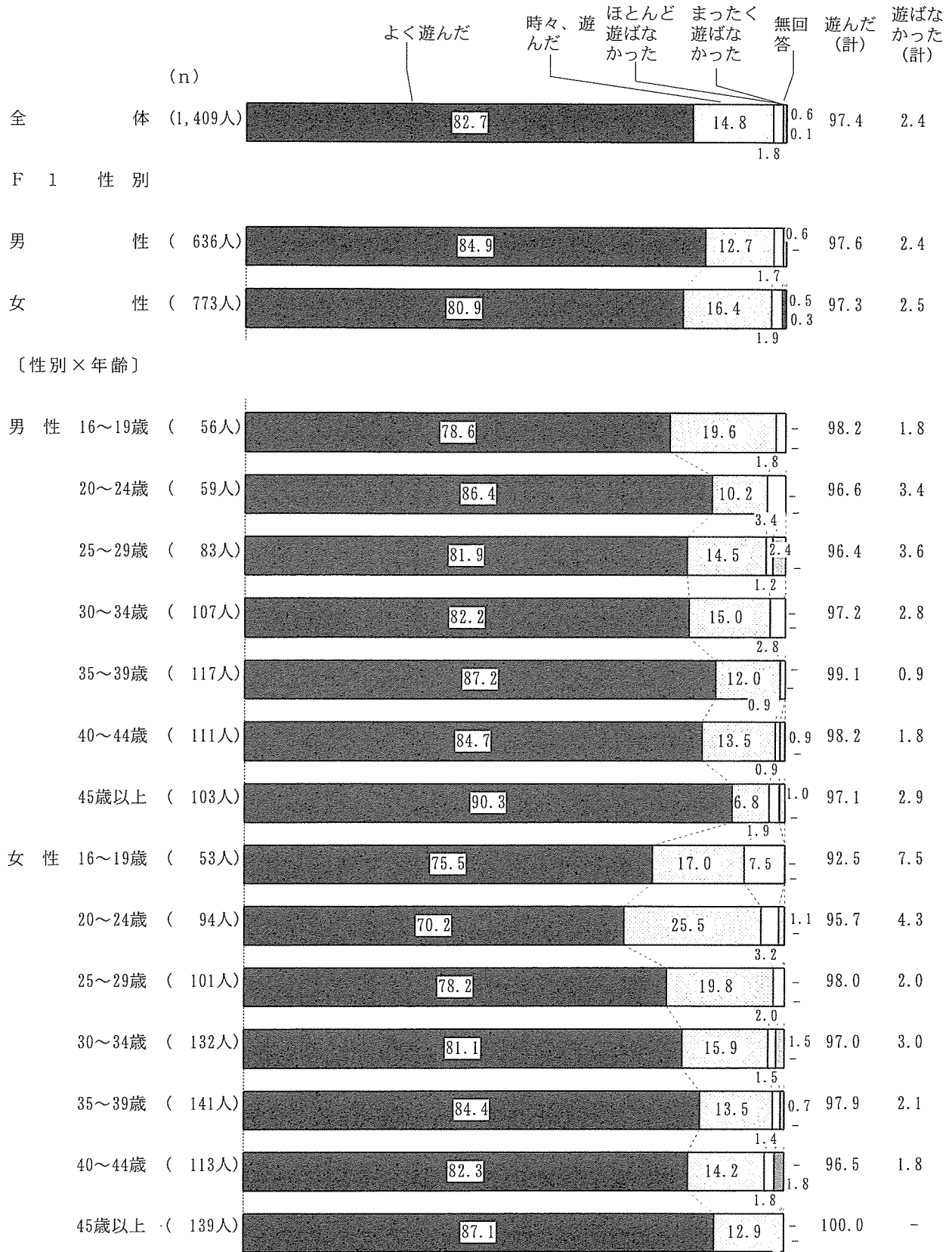


10歳くらいの幼い頃まで、多くの同性の友だちと一緒に外で「よく遊んだ」（82.7%）という者はほぼ8割で、「時々、遊んだ」（14.8%）という者を合わせると、ほとんどの者が同性の友人と『遊んだ』（97.4%）と答えている。

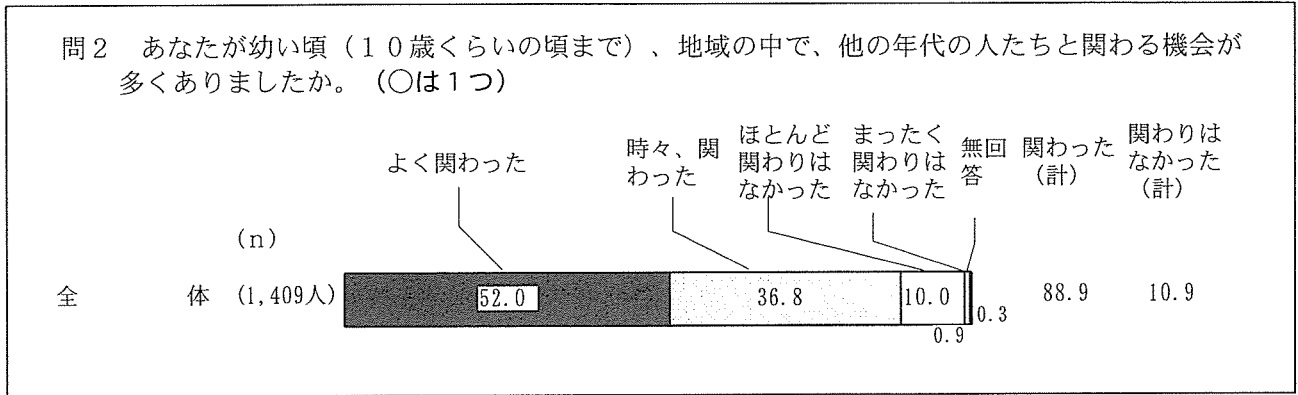
性別にみると（図1-1-1）、「よく遊んだ」は男性（84.9%）がやや多い。

性・年齢別にみると（図1-1-1）、男女とも年齢層が高い層で「よく遊んだ」という者が多い傾向がみられ、特に男性の45歳以上では9割が「よく遊んだ」と答えている。

図1-1-1 幼い頃の同性の友人との関わり（性別、性・年齢別）



2 幼い頃の、他の年代の人たちとの関わり



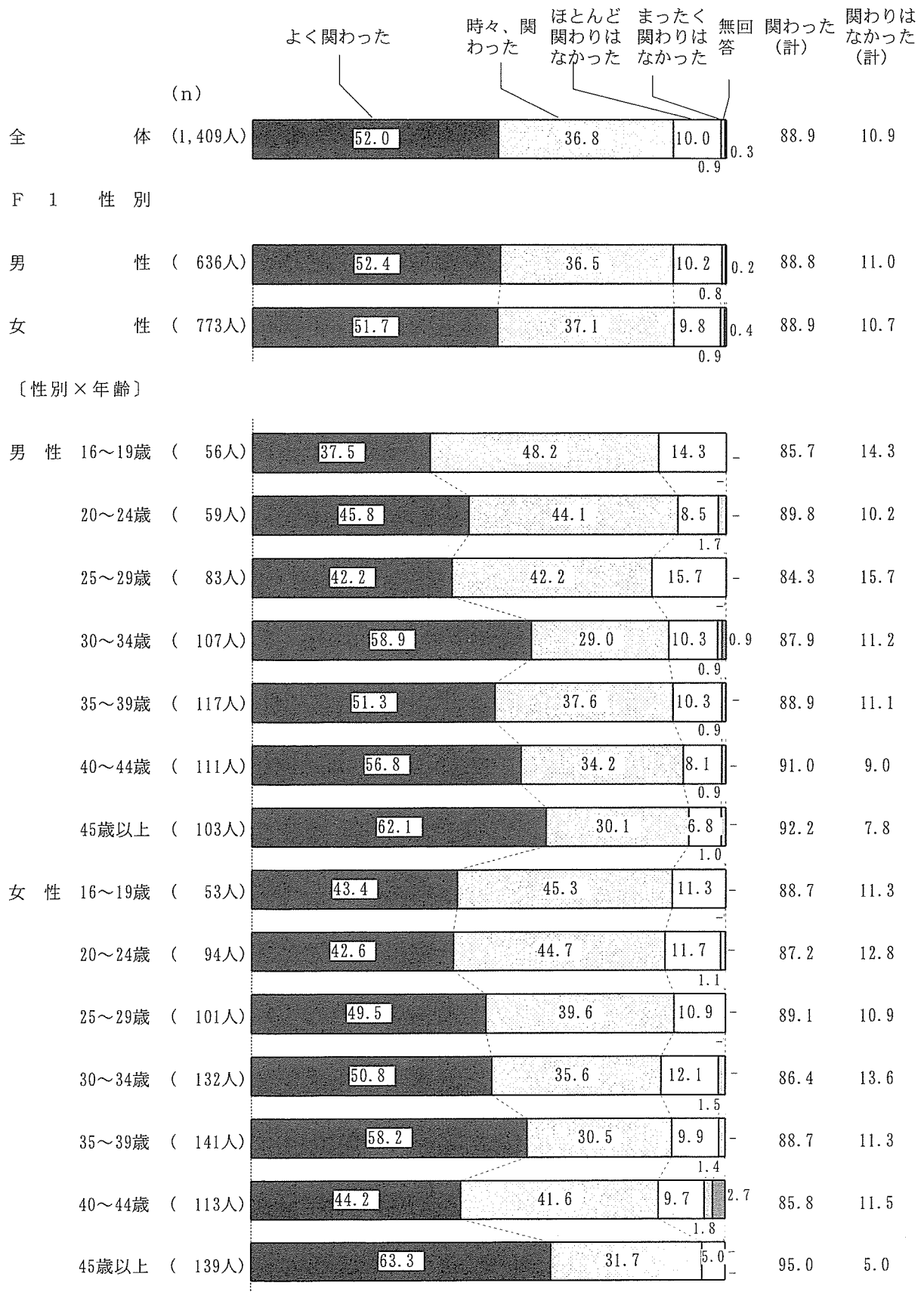
10歳くらいまでの幼い頃、地域の中で、他の年代の人たちと「よく関わった」（52.0%）という者はほぼ半数おり、「時々、関わった」（36.8%）という者を合わせると9割近くが、他の年代の人と関わっていたと答えている。

「ほとんど関わりはなかった」（10.0%）という者は1割、「まったく関わりはなかった」（0.9%）という者はほとんどいない。

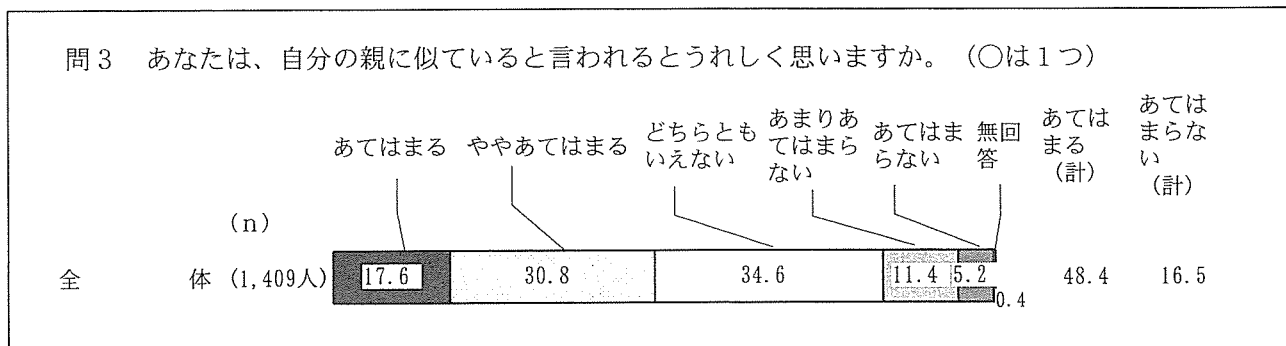
性別にみても（図1-2-1）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-2-1）、男女とも年齢層が高くなるほど、幼い頃に地域の中で、他の年代の人たちと「よく関わった」という者が多くなる傾向がみられ、男女とも45歳以上では6割を超えている。

図1-2-1 幼い頃の、他の年代の人たちとの関わり（性別、性・年齢別）



3 親と似ていることについての意識

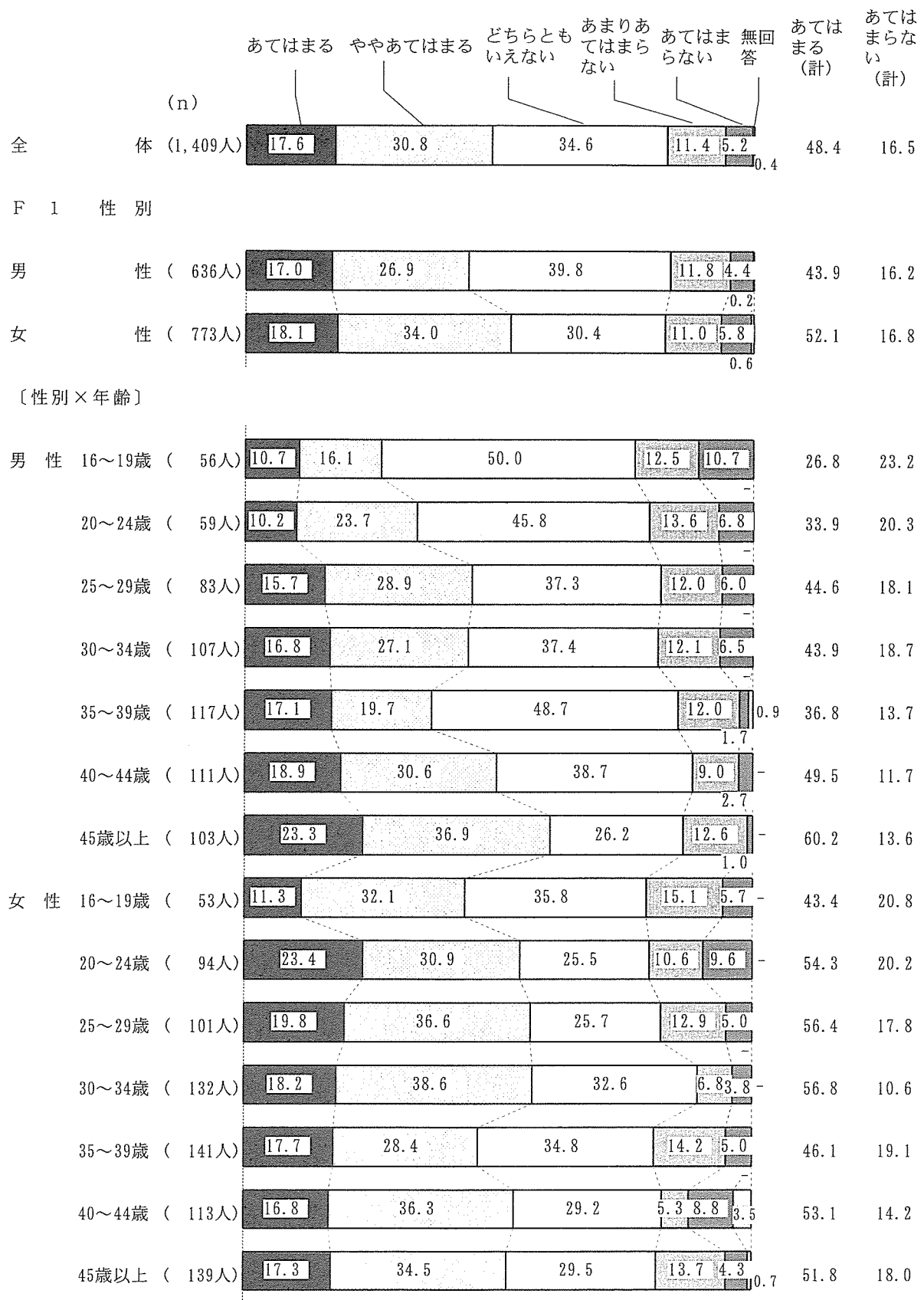


自分の親と似ていると言われるとうれしく思うかについて「あてはまる」(17.6%)という者は2割弱で、「ややあてはまる」(30.8%)を合わせると、うれしく思うに『あてはまる』(48.4%)者は約5割である。

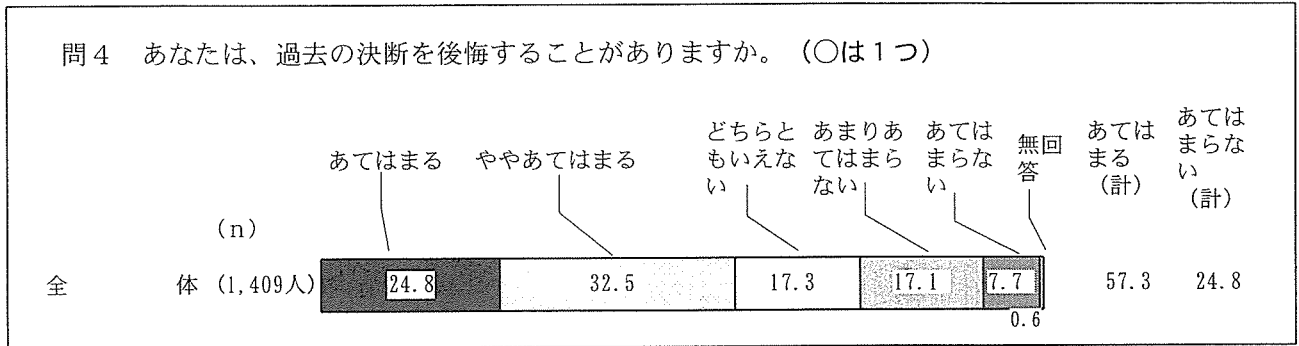
性別にみると(図1-3-1)、自分の親と似ていると言われるとうれしく思うかについて「あてはまる」(男性17.0%、女性18.1%)という者に男女差はみられない。「ややあてはまる」(同26.9%、34.0%)という者を合わせた『あてはまる』(同43.9%、52.1%)者は、男性が4割半ばであるのに対して、女性では半数を超えている。

性・年齢別にみると(図1-3-1)、男性の45歳以上の年齢層で『あてはまる』者が60.2%で、他の年齢層より多くなっている。

図1-3-1 親と似ていることについての意識（性別、性・年齢別）



4 過去の決断を後悔した経験

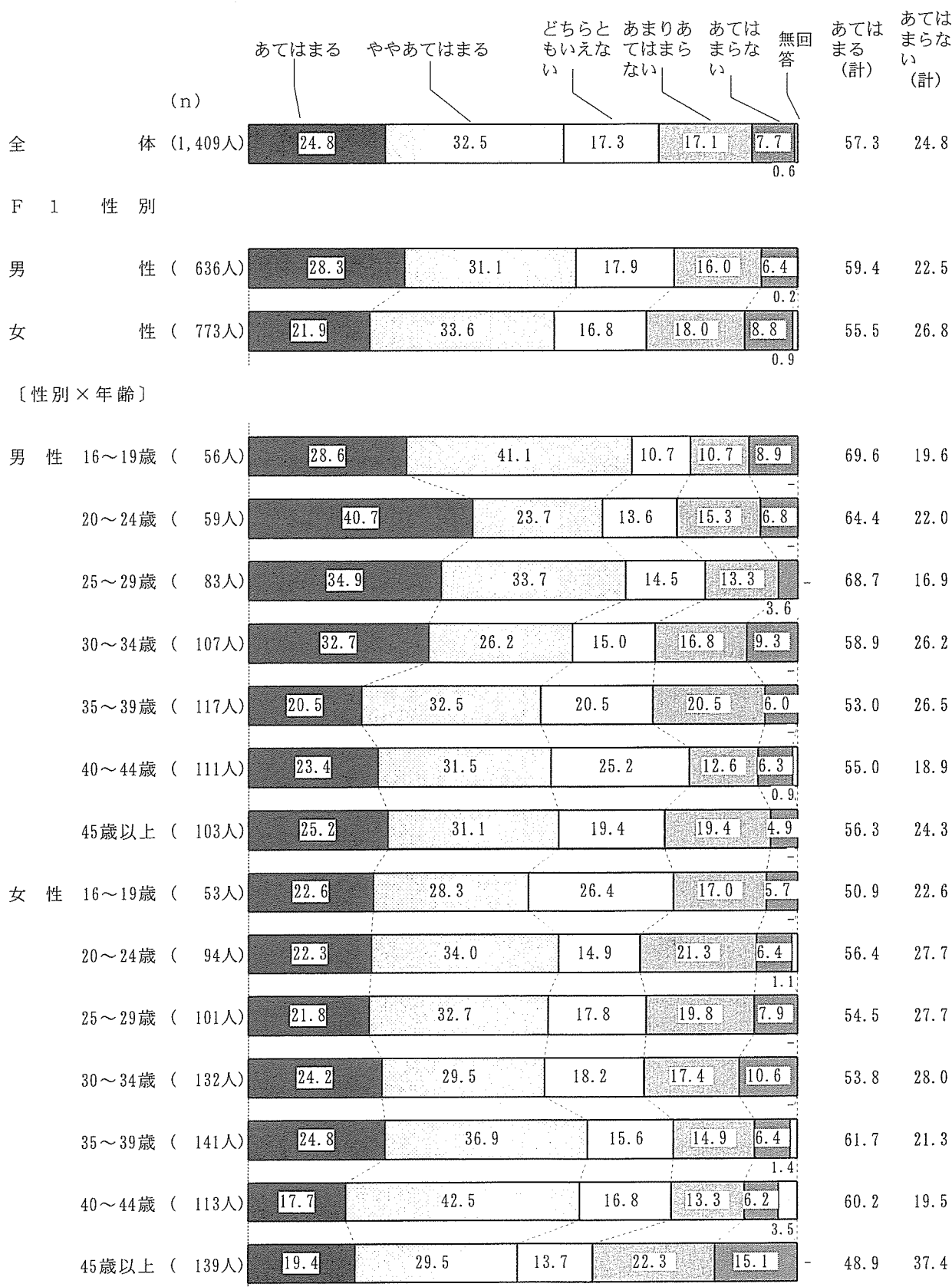


過去の決断を後悔することがあるについて「あてはまる」(24.8%)という者は4人に1人で、「ややあてはまる」(32.5%)という者を合わせると6割近くが『あてはまる』(57.3%)と答えている。

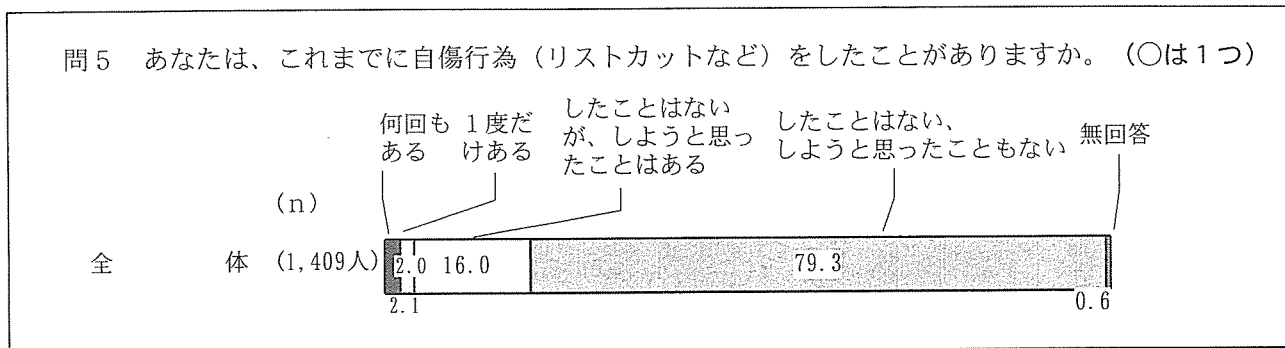
性別にみると(図1-4-1)、過去の決断を後悔することがあるについて「あてはまる」(男性28.3%、女性21.9%)という者は男性で3割近くを占め、女性より多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-4-1)、男性の20~34歳の年齢層で「あてはまる」という者が3割を上回り、他の性・年齢層より多くなっている。

図1-4-1 過去の決断を後悔した経験（性別、性・年齢別）



5 自傷行為の経験

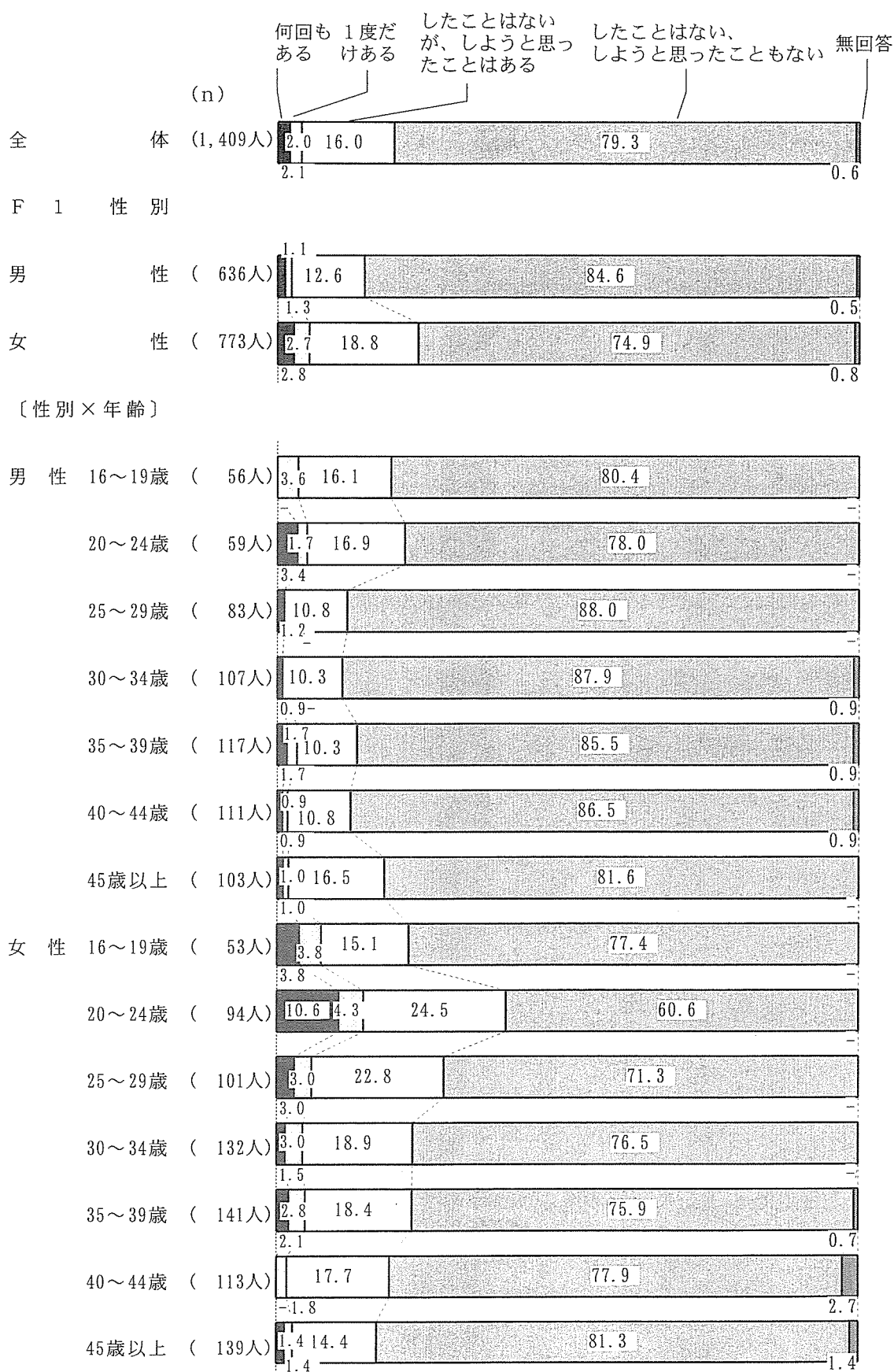


これまでに自傷行為（リストカットなど）をしたことがあるかを聞いたところ、「何回もある」という者は2.1%、「1度だけある」という者が2.0%、「したことはないが、しようと思ったことはある」者が16.0%と答えている。一方、「したことはない、しようと思ったこともない」（79.3%）者は8割である。

性別にみると（図1-5-1）、自傷行為（リストカットなど）を「何回もある」、「1度だけある」、「したことはないが、しようと思ったことはある」者はいずれも男性より女性に多くなっている。「したことはない、しようと思ったこともない」（男性84.6%、女性74.9%）は男性が約10ポイント高い。

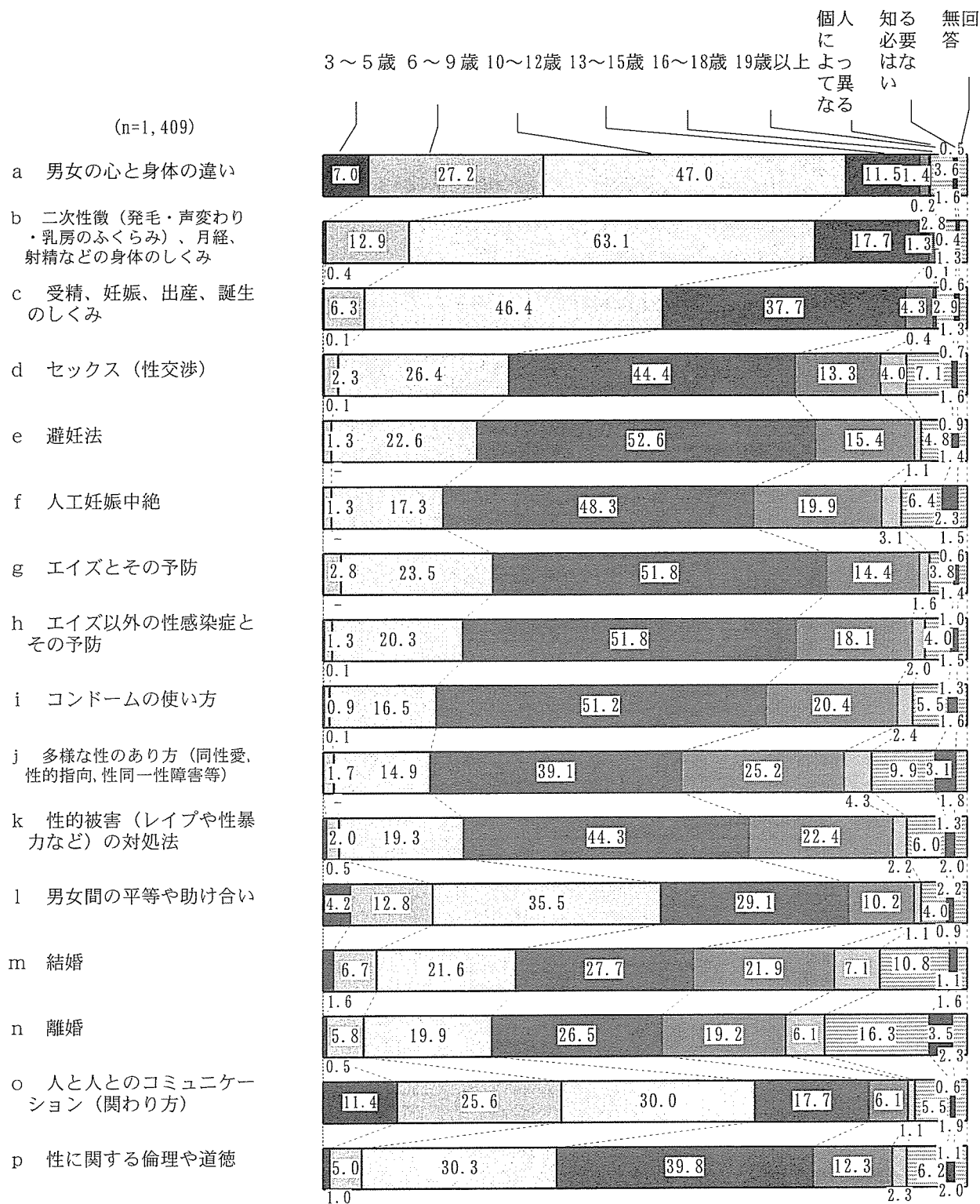
性・年齢別にみると（図1-5-1）、該当数は少ないが女性の20～24歳では「何回もある」（10.6%）という者は1割、「したことはないが、しようと思ったことはある」（24.5%）という者が4人に1人で他の性・年齢層より多くなっている。「したことはない、しようと思ったこともない」は男性では24歳以下と45歳以上の年齢層を除いて比較的多く、女性では年齢が高くなるほど多い傾向がみられる。

図1-5-1 自傷行為の経験（性別、性・年齢別）



6 性に関する事柄を知るべき時期

問6 性に関する事柄について、あなたは一般的に、何歳くらいの時に知るべきだと思いますか。a～pのそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)



性に関する事柄を 16 項目あげ、それぞれについて一般的には何歳くらいの時に知るべきだと思うかを聞いた。

“二次性徴（発毛・声変わり・乳房のふくらみ）、月経、射精などの身体のしくみ”については、小学校高学年にあたる「10～12 歳」（63.1%）くらいの時に知るべきだという者が 6 割以上を占めている。“男女の心と身体の違い”と“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”も「10～12 歳」（男女の違い 47.0%、しくみ 46.4%）に知るべきだという者が 4 割台後半で最も多い。次いで“男女の心と身体の違い”は小学校低学年にあたる「6～9 歳」（27.2%）に、“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”は中学生にあたる「13～15 歳」（37.7%）に、それぞれ知るべきだという者が続いている。

ほかに「13～15 歳」に知るべきであるという者が多いのは、“避妊法”（52.6%）、“エイズとその予防”（51.8%）、“エイズ以外の性感染症とその予防”（51.8%）、“コンドームの使い方”（51.2%）、“人工妊娠中絶”（48.3%）などで、5 割前後の者が中学生の時期に知るべきであると考えている。“セックス（性交渉）”は 4 割半ばの者が「13～15 歳」（44.4%）に知るべきとしているが、より早い「10～12 歳」（26.4%）くらいに知るべきという者も 4 人に 1 人いる。また、“避妊法”、“エイズとその予防”、“エイズ以外の性感染症とその予防”も、より早い「10～12 歳」（避妊法 22.6%、エイズ 23.5%、エイズ以外 20.3%）くらいの時に知るべきだという者が 2 割いる。

“人と人とのコミュニケーション（関わり方）”については、未就学期の「3～5 歳」（11.4%）に知るべきだという人が 1 割強おり、小学校低学年にあたる「6～9 歳」（25.6%）という者も 4 人に 1 人で、他の項目に比べ早い時期に知るべきだと考える者が多くなっている。

“結婚”と“離婚”はいずれも中学生にあたる「13～15 歳」が最も多く 2 割台後半、次いで「10～12 歳」と「16～18 歳」の層がそれぞれほぼ同率の 2 割前後で続いているが、知るべきと思う年齢が分散している。

“性に関する倫理や道徳”は「13～15 歳」（39.8%）が約 4 割、次いで「10～12 歳」（30.3%）が 3 割と多い。

それぞれの項目について性別と性・年齢別にみていく。

まず、“男女の心と身体の違い”については（図 1-6-1）、男女とも小学校高学年にあたる「10～12 歳」（男性 45.1%、女性 48.4%）に知るべきだという者が 4 割台後半で最も多く、次いで小学校低学年にあたる「6～9 歳」（同 24.5%、29.5%）となっているが、男性より女性の方が低年齢で知るべきであると考えている者が多くなっている。

性・年齢別にみると（図 1-6-1）、いずれの性・年齢層でも「10～12 歳」に知るべきであるという者が最も多いが、女性の 40～44 歳の年齢層では「6～9 歳」（38.9%）で知るべきだと考える者が 4 割近くを占めている。

“二次性徴、月経、射精などの身体のしくみ”を知る時期を性別にみると（図 1-6-2）、男女とも小学校高学年にあたる「10～12 歳」（男性 54.7%、女性 70.0%）には知るべきだという者が最も多い。特に女性では 7 割を占めており、男性を約 15 ポイント上回っている。次いで男性では中学生にあたる「13～15 歳」（27.4%）が、女性では小学校低学年にあたる「6～9 歳」（15.4%）が続いており、男性より女性の方が低年齢で知るべきだと考える者が多い。

性・年齢別にみても（図 1-6-2）、いずれの層でも「10～12 歳」が最も多いが、男性の 34 歳以下の年齢層では中学生にあたる「13～15 歳」を 3 割以上の者が支持し、一方、女性 40～44 歳では 2 割の者が「6～9 歳」に知るべきとしている。

図1-6-1 性に関する事柄を知るべき時期—“男女の心と身体の違い”（性別、性・年齢別）

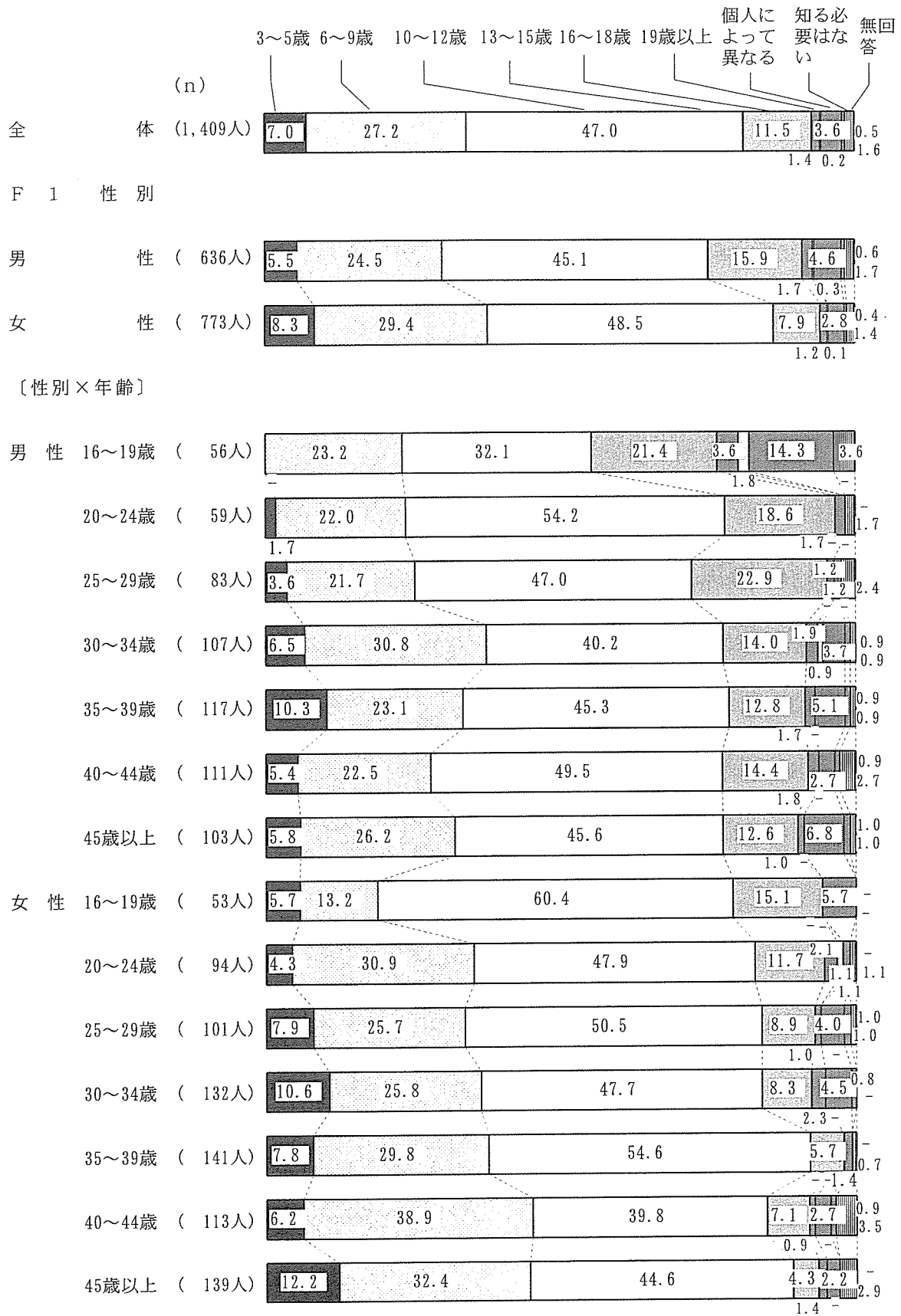
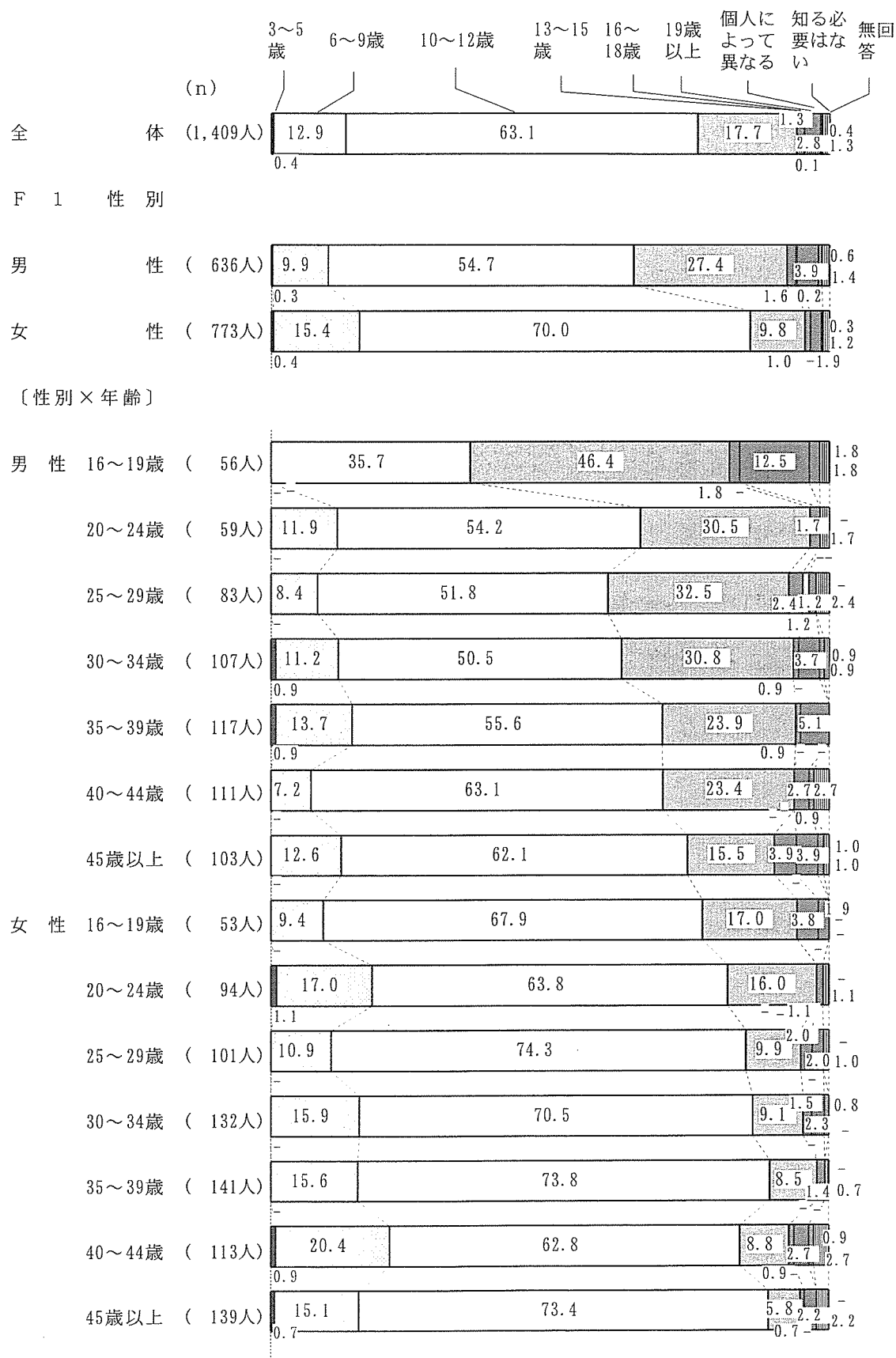


図1-6-2 性に関する事柄を知るべき時期-“二次性徴(発毛・声変わり・乳房のふくらみ)、
月経、射精などの身体のしくみ”(性別、性・年齢別)



“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”を知る時期について性別で見ると（図1-6-3）、男女とも最も多い「10～12歳」は女性（48.9%）が男性（43.4%）よりやや多くなっている。

また、性・年齢別にみると（図1-6-3）、女性の35～39歳で「10～12歳」に知るべきだという者が56.7%と多い。

“セックス（性交渉）”については、性別で見ると「10～12歳」（男性23.7%、女性28.6%）は女性にやや多く、「16～18歳」（男性15.6%、女性11.5%）は男性にやや多い。男性より女性の方が早く知るべきだと考える者が多い傾向がみられる（図1-6-4）。

性・年齢別にみると（図1-6-4）、女性の35～39歳では「10～12歳」に知るべきだという者が36.9%で他の性・年齢層より多い。

“避妊法”について知る時期については、性別による大きな差はみられない（図1-6-5）。

性・年齢別にみると（図1-6-5）、該当数は少ないが女性の20～24歳の年齢層で、小学校高学年にあたる「10～12歳」（35.1%）に知るべきだという者が多くなっている。

“人工妊娠中絶”について性別で見ると、「10～12歳」（男性14.8%、女性19.4%）に知るべきという者は統計的にみて女性がやや多い。（図1-6-6）。

性・年齢別にみると（図1-6-6）、「10～12歳」で知るべきだと考える者は、該当数は少ないが女性の20～24歳（26.6%）と女性の35～39歳（24.8%）の年齢層で4人に1人を占めている。一方、「19歳以上」は男性の40～44歳（9.9%）の1割が支持し、他の性・年齢層より多い。

“エイズとその予防”について知る時期を性別で見ると（図1-6-7）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-6-7）、「10～12歳」に知るべきだという者が女性の20～24歳（34.0%）で他の性・年齢層より多い。

“エイズ以外の性感染症とその予防”を知る時期についても、性別による大きな差はみられない（図1-6-8）。

性・年齢別にみると（図1-6-8）、該当数は少ないが男女とも20～24歳の層で小学校高学年にあたる「10～12歳」（男性35.6%、女性29.8%）に知るべきだという者が多くなっている。

“コンドームの使い方”を知るべき時期についても、性別による差はみられない（図1-6-9）。

性・年齢別にみると（図1-6-9）、どの層も中学生にあたる「13～15歳」が最も多いが、高校生にあたる「16～18歳」に知るべきだという者は男性の45歳以上（30.1%）と女性の40～44歳（29.2%）で3割前後を占め他の性・年齢層より多くなっている。一方、小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだという者は、該当数は少ないが男性20～24歳（33.9%）で多い。

図1-6-3 性に関する事柄を知るべき時期—“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”

(性別、性・年齢別)

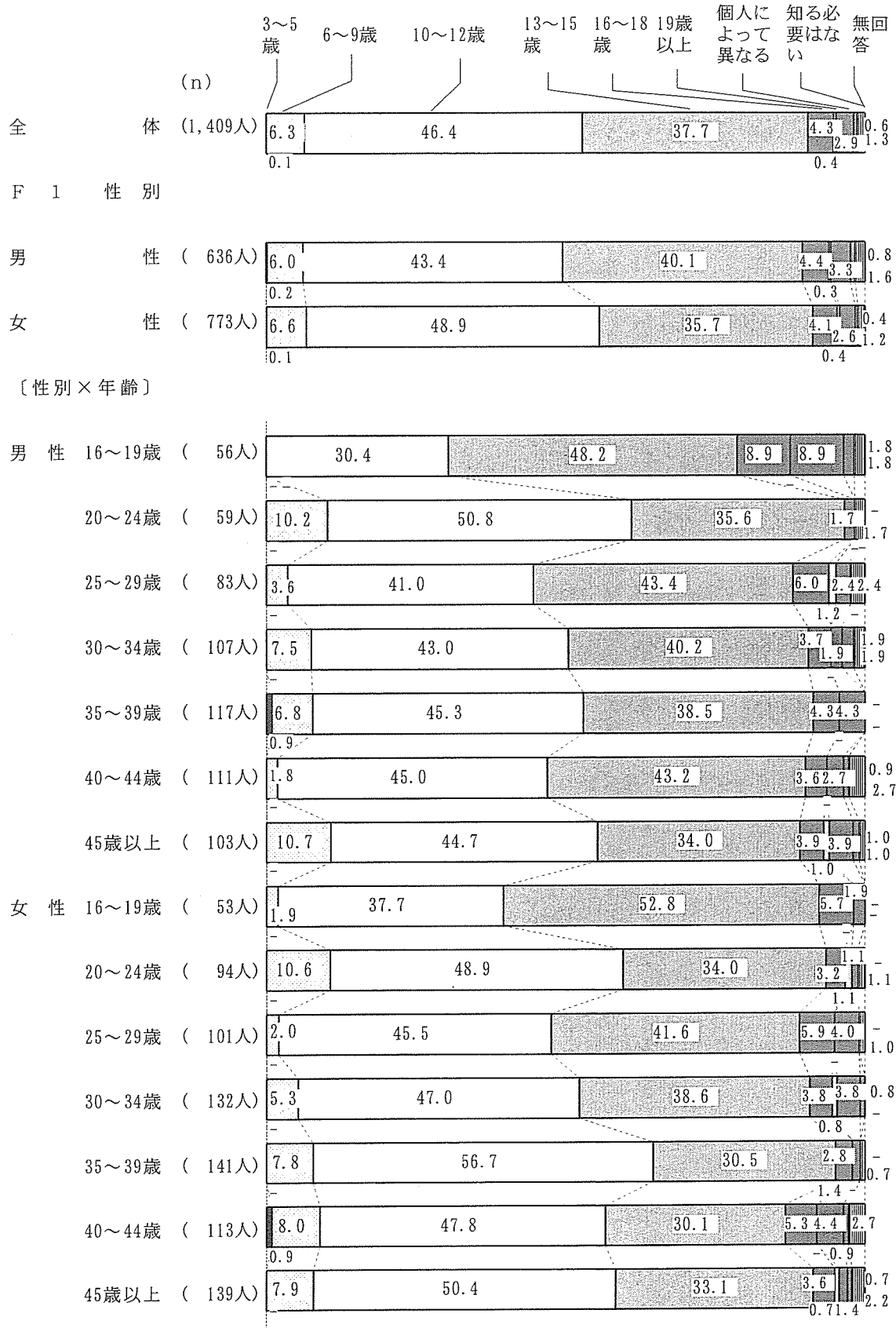


図1-6-4 性に関する事柄を知るべき時期-“セックス(性交渉)”

(性別、性・年齢別)

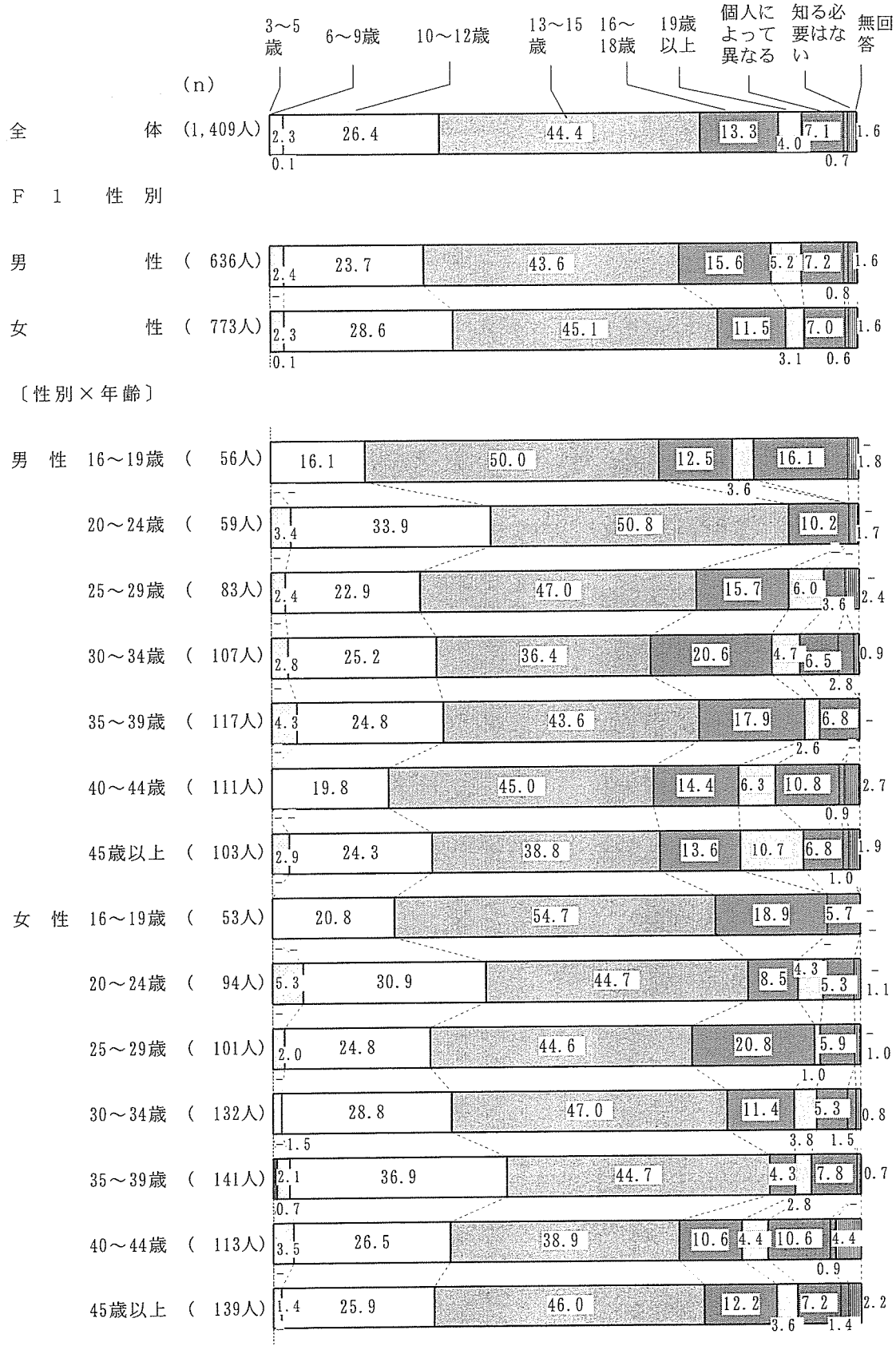


図1-6-5 性に関する事柄を知るべき時期-“避妊法”

(性別、性・年齢別)

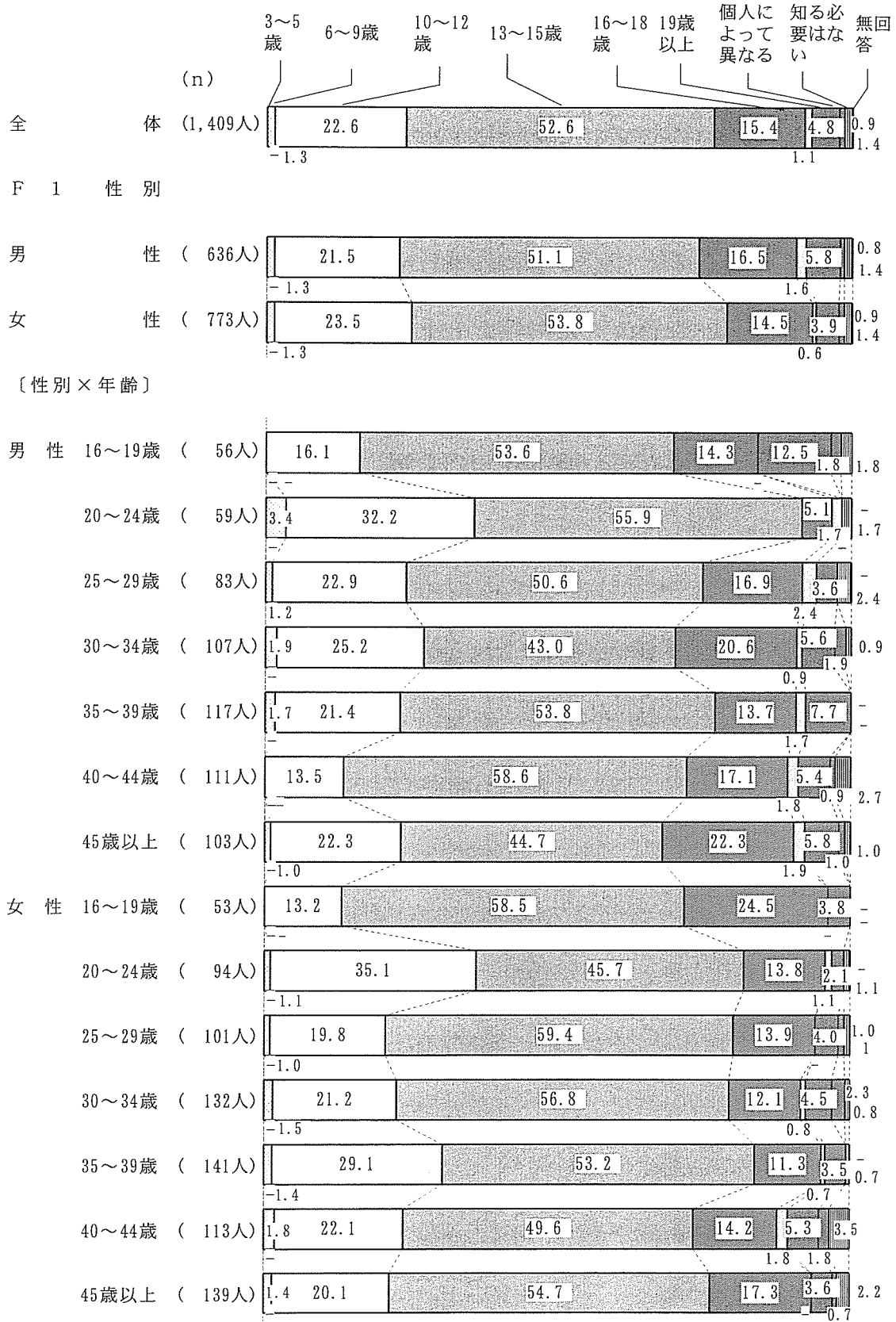


図1-6-6 性に関する事柄を知るべき時期—“人工妊娠中絶法”

(性別、性・年齢別)

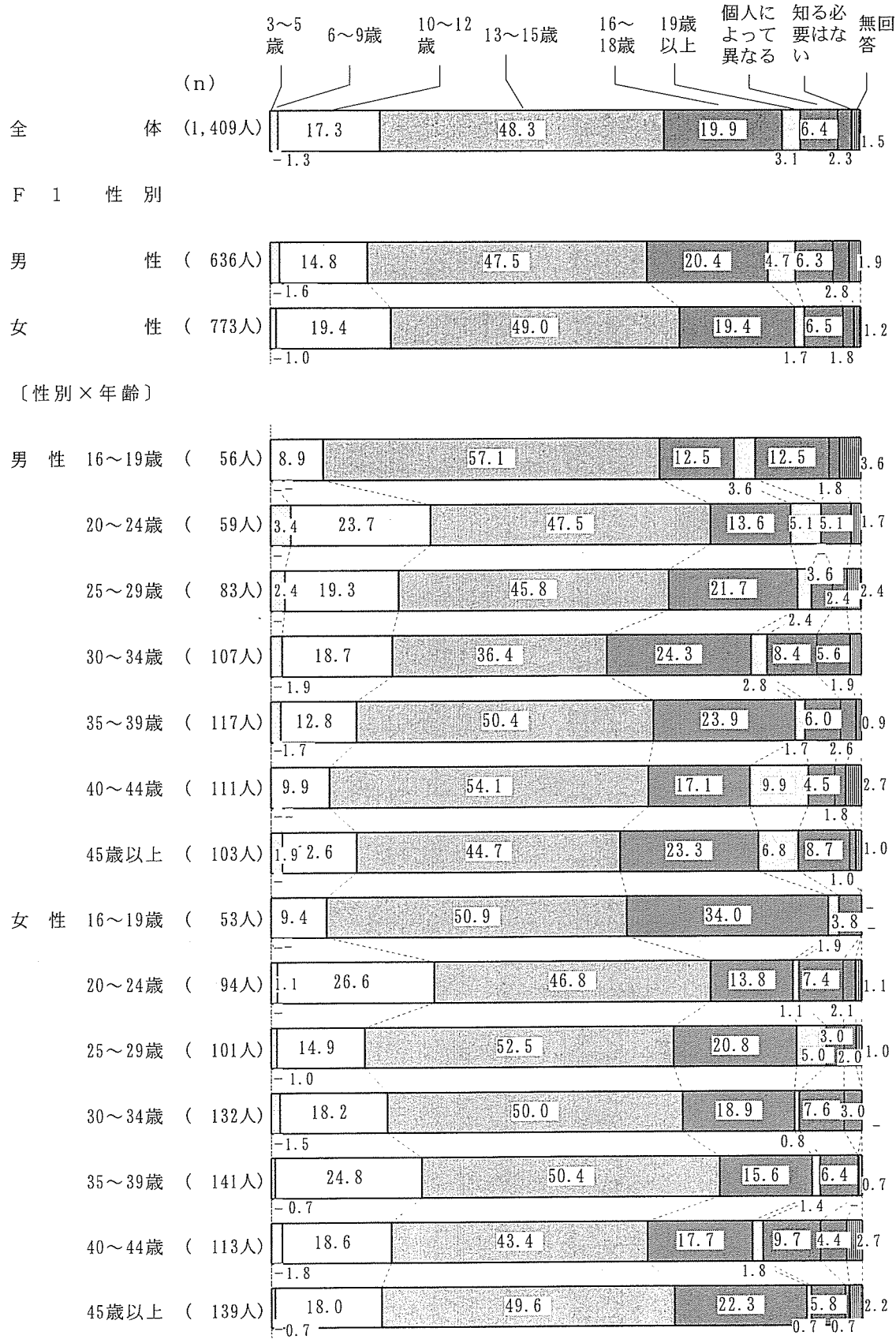


図1-6-7 性に関する事柄を知るべき時期—“エイズとその予防”

(性別、性・年齢別)

